

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2014年3月10日から2024年3月4日までです。
運用方針	主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）株式のうち、相対的に時価総額が中小型規模の株式に投資を行い、投資信託財産の成長を目指して積極的な運用を行います。また、新興市場の株式に積極的に投資する場合があります。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）株式を主要投資対象とします。
投資制限	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	年2回、3月4日および9月4日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

## 第2期

# 運用報告書(全体版)

## 中小型成長株オープン (愛称 スモール・モンスターズ・ジャパン)

【2015年3月4日決算】

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様の「中小型成長株オープン（愛称 スモール・モンスターズ・ジャパン）」は、2015年3月4日に第2期決算を迎えましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-8-1

お問い合わせは弊社カスタマーサービス部へ  
フリーダイヤル ☎0120-048-214（営業日の9:00~17:00）

[ホームページ]

<http://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。  
※機種により本サービスをご利用いただけない場合があります。



## ○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			日経ジャスダック平均 (参考指数)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
		税金 分配	み 金 騰 落	期 騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率			
(設定日) 2014年3月10日	円 10,000	円	—	% —	円 2,102.51	% —	% —	% —	百万円 10
1期(2014年9月4日)	11,248		0	12.5	2,319.75	10.3	95.0	—	448
2期(2015年3月4日)	12,544		0	11.5	2,426.84	4.6	93.9	—	254

(注) 基準価額および分配金（税込み）は1万口当たり、基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本額です。設定日の純資産総額は当初設定元本総額です。

(注) 日経ジャスダック平均は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。設定日の日経ジャスダック平均は設定日前営業日の終値です。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		日経ジャスダック平均 (参考指数)		株式 組入比率	株式 先物比率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期首) 2014年9月4日	円 11,248	% —	円 2,319.75	% —	% 95.0	% —
9月末	11,354	0.9	2,323.27	0.2	93.3	—
10月末	11,221	△ 0.2	2,260.24	△ 2.6	93.7	—
11月末	11,828	5.2	2,359.92	1.7	95.6	—
12月末	12,253	8.9	2,363.94	1.9	96.9	—
2015年1月末	12,129	7.8	2,356.70	1.6	95.4	—
2月末	12,706	13.0	2,434.03	4.9	90.7	—
(期末) 2015年3月4日	円 12,544	% 11.5	円 2,426.84	% 4.6	% 93.9	% —

(注) 騰落率は期首比です。

## ◎基準価額の推移

基準価額は期首の11,248円から、当期末は12,544円となり、値上がり額は1,296円となりました。

### 基準価額の推移



(注) 基準価額は1万口当たりです。

## ◎基準価額の変動要因

(主なプラス要因)

- 主なプラス要因は以下の通りです。
- ・業種配分では、証券、商品先物取引業、不動産業、機械などが基準価額にプラスに寄与しました。
  - ・個別銘柄ではF P G、日精樹脂工業、ファインデックスなどが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- 主なマイナス要因は以下の通りです。
- ・業種配分では、その他製品、医薬品、情報・通信業などが基準価額にマイナスに寄与しました。
  - ・個別銘柄ではフロイント産業、富士通ゼネラル、ディー・エル・イーなどが基準価額にマイナスに寄与しました。

## ◎投資環境（市況）

国内株式市場は、世界景気見通しの下方修正などを受けて2014年10月中旬にかけて一時的に下落する場面もありましたが、円安による企業業績の上方修正期待や大手公的年金の国内株式投資比率拡大への期待などから、底堅く推移しま

した。10月末に日銀が決定した追加金融緩和策が市場の予想を上回る内容であったことから、株式市場は上値を追う展開となりました。12月後半以降は原油安や欧州政情不安などを受けてもみ合いとなりましたが、2015年1月中旬以降は原油価格の底打ちや欧州政情不安後退を背景に上値を試す展開となりました。

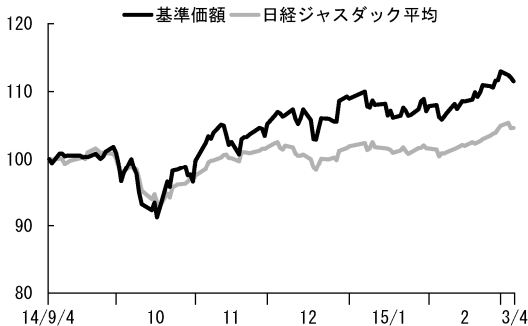
## ◎ポートフォリオについて

当ファンドの運用につきましては、高速データ処理向けソフトウェア開発で高い技術力を有するフィックスターズや、ヘルスケア事業の構造改革等により利益率の改善が期待される堺化学工業、たこ焼き業態に加え、たい焼き業態などマルチブランドでの出店加速により、中期的に事業が拡大すると考えられるホットランドなどを組み入れました。一方、好業績を受け短期間で株価が急騰したジャパンマテリアルや、再生可能エネルギー発電の送電線への接続申請に対して電力会社が回答を保留したことで業績面に悪影響が出ることを懸念して、ウエストホールディングスを売却しました。

## ◎参考指数との比較

当ファンドはベンチマークを設けておりませんが、基準価額の騰落率は、参考指数としている日経ジャスダック平均の騰落率を上回りました。

### 基準価額と日経ジャスダック平均の推移



(注) 上記グラフは、期首の基準価額および日経ジャスダック平均（参考指数）を100として指数化したものです。

## ◎分配金

当ファンドは、毎年3月4日及び9月4日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、委託会社が基準価額水準、配当等収益等を勘案のうえ分配金額を決定します。ただし、分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

当期の収益分配につきましては、基準価額水準が当初元本を上回っておりますが、信託財産の成長に重点を置くこととし、見送りとさせて頂きました。なお、留保益の運用につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

## （分配原資の内訳）

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第 2 期
	2014年9月5日～ 2015年3月4日
当期分配金 （対基準価額比率）	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,545

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## ◎今後の運用方針

国内株式市場は、上昇トレンドにあると考えております。日銀による緩和的な金融政策や政府の経済対策により国内景気の回復が期待されるほか、円安などを背景に企業業績の改善が続くと見込まれることが株式市場をサポートすると考えております。また、日銀によるETFの買入れや年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の国内株式への投資比率拡大計画などが、需給面で株式市場を支えることが期待されます。また、銘柄物色の裾野拡大も予想され、これまで主力大型株に出遅れていた小型株や新興市場株の見直し買いが進むと考えられます。当ファンドの運用につきましては、高い技術力や優れた商品開発力、特徴のあるビジネスモデルで市場を創造し、事業拡大が可能と考えられる銘柄や、事業構造改革などにより利益率の改善が期待される銘柄などを組み入れていく方針です。

○1万口当たりの費用明細

（2014年9月5日～2015年3月4日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	80	0.669	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 48)	(0.400)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	( 29)	(0.242)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 3)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	31	0.258	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	( 31)	(0.258)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 1)	(0.006)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	112	0.933	
期中の平均基準価額は、11,915円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切り捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

（2014年9月5日～2015年3月4日）

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

株式

国	上場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
内		千株	千円	千株	千円
		156	194,746	307	423,521
		( 23)	( -)		

(注) 金額は受渡代金です。

(注) 単位未満は切り捨てです。

(注) ( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

（2014年9月5日～2015年3月4日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	618,267千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	362,691千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.70

（注）(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

（2014年9月5日～2015年3月4日）

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	%	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	%
株式	百万円 194	百万円 65	33.5	百万円 423	百万円 79	18.7

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	999千円
うち利害関係人への支払額 (B)	235千円
(B) / (A)	23.6%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○自社による当ファンドの設定・解約

（2014年9月5日～2015年3月4日）

期首残高 (元本)	当期設定 元本	当期解約 元本	期末残高 (元本)	取引の理由
百万円 10	百万円 —	百万円 —	百万円 10	当初設定時における取得

○組入資産の明細

(2015年3月4日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>建設業 (13.8%)</b>			
ウエストホールディングス	10	—	—
日本アクア	4.5	11.3	7,910
大豊建設	34	16	11,040
青木あすなろ建設	13	10.4	8,902
ユアテック	—	6	5,124
<b>化学 (4.7%)</b>			
堺化学工業	—	15	5,835
積水化成成品工業	—	12	5,352
マンダム	3.4	—	—
<b>医薬品 (1.9%)</b>			
ペプチドリーム	0.8	0.5	4,635
<b>石油・石炭製品 (3.4%)</b>			
MORESCO	4.7	3.8	8,135
<b>機械 (2.6%)</b>			
ペガサスミシン製造	17	—	—
フロイント産業	11.5	—	—
鶴見製作所	2.9	3.3	6,237
キット	7	—	—
<b>電気機器 (7.4%)</b>			
ミマキエンジニアリング	—	2.1	4,939
日本信号	20.2	—	—
富士通ゼネラル	14	—	—
山一電機	19.6	14	12,726
<b>精密機器 (3.1%)</b>			
川澄化学工業	15.8	9.2	7,387
<b>その他製品 (2.5%)</b>			
フルヤ金属	6.4	—	—
サマンサタバサジャパンリミテッド	—	6.1	6,063
<b>情報・通信業 (23.5%)</b>			
ファインデックス	6.9	1.8	9,918
エイチーム	0.5	—	—
モバイルクリエイト	9.6	7.6	5,783

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
じげん	4	9.6	6,268
ディー・エル・イー	6.2	—	—
フィックスターズ	—	2.2	6,399
イグニス	—	1.5	5,970
g u m i	—	1.3	3,229
デジタルガレージ	6.2	4.3	8,471
日本BS放送	17	9.5	10,193
<b>卸売業 (5.0%)</b>			
あい ホールディングス	—	5.2	11,980
<b>小売業 (4.3%)</b>			
ホットランド	—	3	10,230
<b>証券、商品先物取引業 (6.0%)</b>			
F P G	22.4	5.2	14,320
<b>その他金融業 (—%)</b>			
ポケットカード	25	—	—
<b>不動産業 (6.7%)</b>			
オープンハウス	8.2	4	10,980
シノケングループ	—	4.1	5,125
<b>サービス業 (15.1%)</b>			
ジェイエイシーリクルートメント	8.5	9.6	6,979
エス・エム・エス	4.3	—	—
アウトソーシング	7.6	3.7	6,656
ワールドホールディングス	6.7	4.7	4,314
セブテーニ・ホールディングス	—	5.5	5,428
エフアンドエム	6	9	4,653
ジャパンマテリアル	4.8	—	—
ライドオン・エクスプレス	3.5	2.8	8,120
合 計	株数・金額 332	204	239,309
	銘柄数<比率>	33	32 <93.9%>

(注) 業種・銘柄欄の( )内は、当期末の国内株式の評価総額に対する各業種の割合です。

(注) 合計欄の< >内は、当期末の純資産総額に対する評価額の比率です。

(注) 合計株数、および評価額の単位未満は切り捨てです。

(注) 一印は組み入れがありません。

## ○投資信託財産の構成

（2015年3月4日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 239,309	% 89.2
コール・ローン等、その他	28,941	10.8
投資信託財産総額	268,250	100.0

（注）評価額の単位未満は切り捨てです。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2015年3月4日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	268,250,586
コール・ローン等	28,211,139
株式(評価額)	239,309,500
未取配当金	729,940
未収利息	7
(B) 負債	13,323,657
未払金	10,590,224
未払信託報酬	2,711,799
その他未払費用	21,634
(C) 純資産総額(A-B)	254,926,929
元本	203,230,667
次期繰越損益金	51,696,262
(D) 受益権総口数	203,230,667口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,544円

（注）運用報告書作成時点では、監査未了です。

（注）計算期間末における1口当たり純資産額は1,2544円です。

（注）当ファンドの期首元本額は399,105,705円、期中追加設定元本額は26,636,503円、期中一部解約元本額は222,511,541円です。

## ○損益の状況（2014年9月5日～2015年3月4日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	1,503,706
受取配当金	1,502,217
受取利息	1,369
その他収益金	120
(B) 有価証券売買損益	27,114,369
売買益	72,732,735
売買損	△45,618,366
(C) 信託報酬等	△2,733,433
(D) 当期損益金(A+B+C)	25,884,642
(E) 前期繰越損益金	24,003,660
(F) 追加信託差損益金	1,807,960
(配当等相当額)	(1,854,107)
(売買損益相当額)	(△46,147)
(G) 計(D+E+F)	51,696,262
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	51,696,262
追加信託差損益金	1,807,960
(配当等相当額)	(1,854,107)
(売買損益相当額)	(△46,147)
分配準備積立金	49,888,302

（注）損益の状況の中で、(B)有価証券売買損益は期末の評価替えによるものを含みます。(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額、監査費用を含めて表示しています。(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注）収益分配金

決算期	第2期
(a) 配当等収益（費用控除後）	1,360,201円
(b) 有価証券等損益額（費用控除後、繰越欠損金補填後）	24,524,441円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	1,854,107円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	24,003,660円
分配対象収益(a+b+c+d)	51,742,409円
分配対象収益（1万口当たり）	2,545円
分配金額	0円
分配金額（1万口当たり）	0円



### 用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
<b>資産</b>	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
<b>負債</b>	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
<b>純資産総額(資産－負債)</b>	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
<b>受益権総口数</b>	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

### 用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
<b>配当等収益</b>	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
<b>有価証券売買損益</b>	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
<b>信託報酬等</b>	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それらに掛かる消費税等相当額です。
<b>当期損益金</b>	当期における収支合計です。
<b>前期繰越損益金</b>	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
<b>追加信託差損益金</b>	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
<b>計</b>	収益分配前の期中の収支の総合計です。
<b>収益分配金</b>	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
<b>次期繰越損益金</b>	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

〈お知らせ〉

法令諸規則の改正に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。（実施日：2014年12月1日）